

令和2年度 1 学期終業式 式辞

姫路商業高等学校長 塚田 誠司

おはようございます。学校長の塚田です。残念ながら今回も皆さんの前で直接顔を見ながら話すことは叶わず、こうして放送での式辞となりました。中には私の顔も知らない人もいるかもしれません。

さて、本格的には 6 月からの通常授業という、私たち教職員も今まで経験したことのないことであり、皆さんにとっても勉強、部活動等、大変な時間であったと思います。体育大会も 6 月については、中止となりました。

とりわけ、3 年生にとっては、最後の総体、文化部の最後の各種大会が中止になり、代替大会が実施される部活動もあるにしろ、やるせない時間であり、切り替えが難しい時間であったと思います。目標がなくなった……。涙は見せられないからって、お風呂で一人泣いた人もいるかもしれません。

1 年生にとっても高校生になった気分がしない、不安な時間だったと思います。

2 年生……。ある意味一番余裕を持ってこの状況を見守っていたかもしれませんが、それでも修学旅行も控えた中で、先行きの不透明さにまだまだ不安をかかえているはずです。

それでも、先生方のご尽力、保護者の皆さんの協力、そして、皆の頑張りにより、我が姫路商業は、なんとか無事に今日の日を迎えました。

感謝したいと思います。

今年の梅雨は雨が非常に多く、心が痛む大きな災害もありましたが、いつの間にか蝉が鳴く季節となり、いよいよ梅雨が明ける気配です。

明日からは、約 3 週間というつかの間の夏休みですが、私から今日は 2 点、皆さんに伝えたいと思います

1 点目は、「振り返り」です

4 月当初、私は皆さんに一つだけ伝えました。覚えていますか？

それは、「時を守り、場を清め、礼を尽くす」という言葉です。

時を守れたか？

場を清めることができたか？

礼を尽くすことができたか？

この3つは、学校生活、クラス内、あるいは部活動内でとても大切なことです。そして、実は卒業後の社会生活においても、とても大切なことなんです

中でも、この4月からの時間を頑張ってきた皆に伝えたいのは3つ目の「礼を尽くす」です

礼をつくすというのは、「相手を尊重する」ということです

「相手をリスペクトする」ということです

そして、何より「自分を尊重する」ということです。「自分を大切にする」ということです。

毎日のように報道されている 事件、事案を考えてみてください
すべて、この「礼をつくさなかった」というところから起こっています
人を傷つける殺傷事件
コロナ禍での身勝手な行動
SNS 上での誹謗中傷
全国の学校で、日々問題になっている「いじめ」もそうです

君たちに問います

親に礼をつくしましたか？

友達に礼をつくしましたか？

先生に礼をつくしましたか？

地域の方に礼をつくしましたか？

通学路で礼をつくしましたか？

街で礼をつくしましたか？

そして

今、話を聞いている皆さんの姿勢はどうですか？

背筋は伸びていますか？

「トラブルは、無礼からはじまる」

「礼をつくす」 もう一度よく振り返り、考えてみてください
姫路商業での「考える」というのは、ぼおーっと考えるだけじゃなく、「振り返る」→「気づく」→そして、「活かす」ということです。

2点目は、「当たり前レベル」という話をします。

正直に言います。残念ながら、今年1年については、いろんな意味で皆さんには時間がありません。自覚していますか？

そういう中で、何をどうしたらいいんやろ？と漠然と毎日を送っている人がほとんどではないでしょうか？そういう人に送りたい言葉です。

例えば、イチローがいますよね

野球部の人たちをはじめ、私たちが考えるのは、どうしたらあんなすごい選手になれるんだろう？ということです。そう、ただ漠然と考える。

イチローのようにになりたい と思いながら、そのレベルの一番上ばかりに焦点をあてて、すごいところに、カッコいいところに焦点をあてて、まねしようとする。

もうひとつの例をあげます

毎日家に帰ってから、1時間しか勉強しない人

毎日家に帰ってから、3時間平気で勉強する人

この「平気で」というところがポイントです。

どちらが優秀な成績をとれるか？

後者です。

そう、「当たり前レベル」が違うんです。

それに気づかず、上ばかり見て、そうなりたいと願う。

もう一度言います。「当たり前レベル」が違うんです。

そうは言っても、ただ、勉強や練習時間を3時間、4時間、5時間増やしていけばいいといっているのではありません。

イチローは、愛知 愛工大名電高1年の時、打力を鍛えたいと思ったそうです。素振りは毎日何千回と繰り返しますが、打力を高めるために、本当は足腰も鍛えたい。だから、走り込みもしたい。でも1年生は雑用が多く、走り込む時間がない。

考えた彼は、毎日砂浜に行き、裸足で何千回という素振りを繰り返したそうです。タイムマネジメントと工夫ですね

この話からの気づきは、イチローとは、「当たり前レベル」が違うということです。

皆さんがこの夏休みを契機に取り組むことは、ただ漠然といろんなことに取り組むことではなく、進路に向けて、部活動での活躍に向けて、己の「当たり前レベル」を上げていくということです。

それを繰り返す、「当たり前レベル」を上げていくことで、気がつけばとんでもない世界まで到達していく。

目標をきつと達成することができます。

断言します。

上ばかり見ず、まずは自分の「当たり前レベル」を高めていってください。

当たり前レベルを上げる

負けるな 姫商生 此処にあり

最後になりましたが、どうかこの夏休み、

自分を大切に、命を大切に

8月24日、元気に全員登校してきてください

私からの式辞を終わります